

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は **1** のみで、5 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立南多摩中等教育学校

問題は次のページからです。

1

文章1と文章2

を読み、あとの問題に答えなさい。

(*印のついている言葉には本文のあとに〔注〕があります。)

文章1

思い込みが怖いのは、それでこれから起きようとしている出来事を言わば色眼鏡をかけて見てしまいがちになる点です。対人関係でも、最初出会ったときにやさしい表情をしていたため、その人をいったんよい人だと思い込んでしまうと、その人の行為がすべてよいように見え、てしまうということがあります。逆に一度嫌いだと思った人の行為はどうしてもネガティブに評価してしまいがちです。

そうしたことは自然科学でも起こります。パラダイムという言葉が聞かれたことがあると思います。ある時代に多くの人が当然の前提として受け入れている、支配的な、あるいは規範になっているようなものを見方や考え方を指す言葉です。それが大きく変化することがあります。古い例ですが、天動説から地動説への変化もその代表的な例です。従来の枠組みに慣れてしまっていると、仮にそれから外れた例を示されても、わたしたちはその枠組み自体を疑うということも簡単にはしません。逆に、何か特別な理由があつてそうした例が観測されたのではないかと考えたりします。従来の枠組みを維持しようという方向にわたしたちの思考は働くのです。しかし、多くの反例が示されて、いよいよとなったときにパラダイムの劇的な変化(パラダイムシフト)が

起こるのです。いったん信じ込んだものから自由になるのがとてもむずかしいことがこのことからわかります。

わたしたちの知識は少なからずこのような思い込みで成りたっている可能性があります。そうした思い込みを古代ギリシアの人たちは「ドクサ」という言葉で表現しました。臆見と訳されたりしますが、十分な根拠がないにもかかわらず、ただ憶測に基づいて真理だと思いつている見解という意味です。

いまでも言いましたように、わたしたちはいったん正しいと思いついたものから容易に抜けだすことができません。そのことをよく示すラテン語のおもしろいことわざがあります。「クオット・カピタ・トト・センス (Quot capita, tot sensus)」というものです。もともとはホラティウスという古代ローマを代表する詩人の『風刺詩』のなかに出てくる言葉です。試みに訳せば、「頭の数だけ意見がある」となるでしょうか。日本語の「十人十色」ということわざに近いですが、こちらの方は主に好みや趣味の違いを指します。それに対して、「クオット・カピタ・トト・センス」の方は、考え方や見解がそれぞれの人で違うということの意味しています。つまり、誰もが自分の判断や見解に自信をもっていて決して譲らない、誰もが自分の考えに固執するので意見がまとまらない、議論しても簡単に統一した見解を出せないという状態を表したものです。

誰でも、自分がこれこそ正しいと思ひ込んだものにしがみついてしまふのです。それは逆に言うと、誰のものであれ、人のものの見方や考え方というのは、絶対に確実なものではなく、多かれ少なかれ、偏りや誤りがあるということです。周りから見るとたとえこっけいなものであつても、しばしば本人は真剣に、そしてかたくなにそれを信じ込んでしまい、それから離れることができないのです。

(藤田正勝「はじめての哲学」による)

〔注〕

対人関係——他人との関係。

ネガティブ——否定的であるさま。

枠組み——物事のしくみ。

反例——ある主張に当てはまらないことを示す例。

古代ギリシア——大昔のギリシア。

風刺詩——詩集の名前。

文章2

「哲学対話」という日本語の語句が広く使われるようになったのは、かなり最近のことで、早くとも二〇一〇年以降のことです。* 哲学カフェや子どもの哲学などの形で行われる哲学的な対話が、いつしか関係者の間で「哲学対話」と呼ばれるようになり、哲学カフェなどの活動が広まるにつれて、人々の共通の語彙になったのです。

哲学カフェや子どもの哲学、哲学相談（哲学カウンセリング・哲学コンサルティング）などの活動をまとめて「哲学プラクティス」と呼ぶことがあります。「プラクティス」は英語で「実践」という意味で、「哲学プラクティス」とは「哲学を実践すること」です。そして、哲学プラクティスの主要な方法として用いられるのが、哲学対話です。

哲学プラクティスの目的や手法は実践者によってさまざまであり、それに応じて哲学対話のあり方もさまざまです。だから、哲学対話の一般的な定義はありません。ですが、さまざまな形の哲学対話の間にゆるやかに共通して見られるいくつかの特徴があります。それをまとめると次のように言うことができますでしょう。

哲学対話とは、人が生きるなかで出会うさまざまな問いを、人々と言葉を交わしながら、ゆったり、じっくり考えることによって、自己と世界の見方を深く豊かにしていくこと。

もう少し詳しく見てみましょう。

哲学対話にはテーマがあり、問いがあります。テーマや問いを設定せずに哲学対話が始まることもありますが、その場合は対話のなかでテーマや問いを探していくことになります。哲学対話は何らかのテーマや問いをめぐって進むのです。そして、そのテーマや問いが哲学対話で参加者によって共有され、参加者をつなぐもつとも大切なものになります。

逆に言えば、参加者は他のものは共有していなくてもいいわけです。いや、共有していないほうがいいとすら言えるかもしれません。互いの職業、地位、履歴、人柄、名前すら知らなくても、テーマや問いを共有していれば、哲学対話は成立するし、その方がよい哲学対話になることがあります。

哲学対話ではありとあらゆる問いを問います。人間と人間をとりまく世界のあらゆるものを、哲学対話のテーマにすることができま。それでも、あえて哲学対話で取り上げられる問いの特徴をあげるとすれば、当たり前のことをあえて問う問い、そしてそう簡単に答えの出ない問い、ということになるでしょう。

たとえば「幸せとは何か」「なぜ善悪の区別があるのか」「自由であることはよいことか」などです。誰もが「幸福」「善悪」「自由」などの言葉を理解していると思っっています。それぞれの人がそれぞれの幸福観をもち、幸福になりたいと願って生きているし、たいいていの人々は善悪をわきまえていて、悪いことをすれば非難されるし、人は自由でありたい

と願うけれど、行き過ぎた自由はよくない結果を生む、などと思つて
います。

しかし、ひとたびこれら当たり前のことをめぐる問いを問うと、実は、
みんなさまざまに異なる意見ことをもち、誰も最終的な答えを知らないこ
とに気づいて驚おどろきます。その驚きから哲学対話は始まります。これら
は、生きるなかで誰もが出会うことのある問いですが、それらを日常
生活のなかで立ち止まって考えることは、あまりありません。それは、
「幸福」も「善悪」も「生きること」もあまりに当たり前のこと、わか
りきったこととされているからです。しかし、これらのことをいったん
考え始めると、それらはまったく当たり前のことなどではないことが
わかるのです。

(寺田俊郎「ゼロからはじめる哲学対話てっかく」)

— 哲学ブックテイス・ハンドブック」序章1による)

(注)

哲学カフェ

—— みんなで哲学的な話し合いをする場。

〔問題1〕

文章1に大きく変化することがありますとありますが、

「大きく変化する」理由を、本文中の表現を使って、五十字以内で説明しなさい。

なお、ゝや。や「なども、それぞれ字数に数え、一ますめから書き始めること。

〔問題2〕

文章2に「幸せとは何か」「なぜ善悪ぜんあくの区別があるのか

「自由であることはよいことか」とありますが、筆者はこれらの問いに対する答えをどのように考えていますか。解答らんらんに合うように三十五字以内で答えなさい。ただし、「当たり前」という言葉を必ず用いること。

なお、ゝや。や「なども、それぞれ字数に数え、一ますめから書き始めること。

〔問題3〕

文章1と**文章2**をふまえて、あなたなら「哲学対話」てつがく

という方法を、どのような場面でのように生かすことができるかと考えますか。自分の考えを四百字以上五百字以内で書きなさい。ただし、あとの〔手順〕と〔きまり〕にしたがうこと。

〔手順〕

1 「思い込み」とはどういうことか、**文章1**の具体例を用いて説明する。

2 **文章2**において、「哲学対話」によってどのようなよい点が生じるのか、筆者の考えをまとめる。

3 〔手順〕の1と〔手順〕の2を関係付けながら、自分の考えを書く。

〔きまり〕

○ 題名は書きません。

○ 最初の行から書き始めます。

○ 各段落かくだんらくの最初の字は一字下げて書きます。

○ 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。

○ ゝや。や「などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じますめに書きます。(ますめの下に書いてもかまいません。)

○ 。と」が続く場合には、同じますめに書いてもかまいません。この場合、「」で一字と数えます。

○ 段落をかえたときの残りのますめは、字数として数えます。

○ 最後の段落の残りのますめは、字数として数えませんが。